



修了式



平成29年 3月号

題字 1年 上西 将真

感謝・感激・感動の卒業式！！ 3月1日（水）



春の気配が感じられる3月1日、3年生4名が分校を巣立ちました。庄田卓爾校長先生は卒業証書を一人ずつ授与し、祝辞の中で「校長として皆さんに感心することは、少人数の学校環境の中でいつも前向きに学校生活を送ってきたということです。特に学校行事においては、学年を越えて協力しながら取り組み、各学年において自分の役割を良く果たし、充実した行事につなげてくれました。」と述べられました。また会社経営の傍ら、ロケット開発の夢を実現した植松 努氏、料理人になる夢のおかげで中学・高校での荒れた生活から抜け出した、一流フレンチシェフの木下 威征氏について紹介され、「夢を継続してつむぎ、確たる意志をもってその実現に向かう時、夢はやがて『人のためになりたい』という志となっていきます。志をもった皆さんの一人ひとりが様々な人々と協力しながら、例えば、この地域の活性化といった大きな課題に挑戦する姿を見ることが、私たち教職員の大きな夢です。」とエールを送られました。また、来賓の方々からも心のこもった励ましのご祝辞をいただきました。

答辞では佐原 愛希さんが、「明日から私たち4人はそれぞれの夢に向かって別々の道を進みます。清水分校の温かさの中にいた私たちには、社会は冷たいものを感じるかもしれません。でも壁にぶつかった時には、先生方に教えていただいたことや、高校3年間で手に入れたかけがえのない大切な思い出を糧にして乗り越えていきます。」と述べるとともに、「清水分校がいつまでも私たちの母校として帰れる場所であることを願い、答辞といたします。」と結びました。

生徒会主催のお別れ会では、卒業生が幼い頃や高校生活をスライドで振り返ったり、小中学校の時代にお世話になった恩師の方々からのお祝いメッセージを披露したりしました。最後に、在校生から花束と色紙、そして手作りのお菓子を卒業生にプレゼントして終了しました。「いい卒業式だった」と保護者の方も喜んでくれました。



「きのくにジュニア文芸賞」受賞

ことばや文芸に関する興味・関心を高め、読書への意欲向上を図る目的で、平成20年度から実施されている「きのくにジュニア文芸賞」。6部門の1つである、「ユース俳句・高等学校の部」で、2年生 宮尾 侑也くんが「和歌山県教育委員会賞」を受賞しました。

【 我が影の背丈伸びゆく秋近し 】

4 / 5 離任式

4 / 10 (午前) 着任式・始業式 (午後) 入学式

4 / 11 一斉テスト